

「昭和 23 年の学制改革に遭遇した世代の『思い出の記』(その 2)」

《 相馬中学校に入学し相馬高校卒業となる等 》

生徒会発足のころ^(※1)高普 2 回卒 田巻 照郎^(※2)

(1) 生徒会発足にいたるまで

昭和 24 年の春(私が高 3 のとき)生徒指導担当の坂田先生から生徒会を発足させたいが君が中心となってやって貰いたいと相談をうけたとき、私は頑強に抵抗した。

予科練を終戦と共に大湊から復員し、二高、仙台工専を目指し乍ら学力不足からどっぺり、一時は進学をあきらめた私が中村町役場の吏員を辞め、相馬高校 2 年に編入したのは再度進学に挑戦するためであった。その間、父親を亡くし、母が残された 7 人の子供を兄の手伝いがあったとは云え育て上げねばならなかったとき、大学進学は私にとって苦しい選択であった。それも大切な受験年に…

当時の学校は昔の相馬中学校時代とは異なり荒れに荒れていた。以前ピカピカと光る程磨かれていた中央廊下も砂まみれ、学校の校門もなきに等しく私等は遅刻すまいと崩れた垣根のすき間から登校したものである。軍国主義を謳歌した先生がデモクラシーを説く姿は正に迫力が乏しく、組合役員の先生が幅をきかす時代であった。ただ、生徒は進学組に限らずそれなりに勉学に励んでいた。又よく遊び、よく悪さもした。しかし、一体感が失われ夫々手前勝手だったことは否めない。何とかしなくちゃと思う気持ちはあった。

坂田先生の申し入れは、しつこく最後には佐藤校長に説得されて秋迄と云う条件で引き受けた。

昭和 24 年 9 月 1 日生徒会長立候補演説会が全校生徒出席の下、先生方が窓際に並び、騒の中で開催された。今で云えばまさにお祭り騒ぎである。対抗馬は堀川清昭^(※3)君、寧ろ堀川君の演説のほうが理路整然としていた。9 月 6 日生徒会長の選挙があり、私が選任された。

(2) クラブ活動費について

クラブ活動費については各クラブから提出を求め事務局長の水戸正敏^(※4)君と共に配分等をきめ部長会にかけた。ただ野球部に重点をおいた故か各部から猛反発をくった。当時はバレー部、卓球部、山岳部が活動的であったと記憶している。当時の部会では卓球部長の故只野喜弘^(※5)君の注説は秀逸であった。まあ何とかとりまとめたが大変な難事であった。この時の水戸君は名事務局長ぶりを発揮してくれた。

(3) 文化祭のこと

昭和 23 年学校の創立 50 周年記念行事があり文化祭・運動会が大々的に行われた。

その翌年である昭和 24 年文化祭開催については問題はあったが初めての生徒会主催の文化祭と云うことで実施することと決定した。

ただ残念乍ら開催費が捻出できない。私はこの文化祭で馬陵健児の意気を示したかった。佐藤校長のあと押しで P T A の役員会の席上開催費の借入を申し入れた。2 月迄の返済条件で借入れは承認された。当時の P T A 会長さん、副会長さんに本誌上をかり再度感謝の意を表したい。

文化祭は当時の文化部長 故高野操^(※6)君がとりしきったが独創性にあふれ盛会であった。特に映画祭と共に収入源であった喫茶部は酒井好忠^(※7)君らの奮闘でお汁粉が大好評であった。

その晩そのあんこが消滅したのである。所謂「あん泥」事件の発生である。小使室から中央廊下に点々とあんこの跡があったと云うがすでに仲間の腹に入ったこと、強いて詮索せずに終わったが今でも文化祭での迷宮入り事件として語り草になっている。

(4) 相女マンスリー事件

80年史に詳細書いてあるとおりと聞いているが、翌年イールズ事件等があり公安当局が余りにも神経質であったのではないかと思う。

ただ民青同問題については当時者と佐藤校長との話し合いは、連日人を替えて深夜にまで及び、当時の佐藤校長の熱心さには敬服したものである。彼等にとってはこの問題は青春の一齣と云える。

(5) 修学旅行

私は今でも修学旅行未実施について犯罪人の扱いを受けている。当時は戦後の大インフレにより経済的に苦しい生徒も多かった。然し農家の子ども等はわりと裕福であった。学生最後の旅行でもあり実行案等もまとめたがこういう情勢のため投票で決めることにした。投票は反対する人が多くと云うよりも参加予定者数が少なかつたため取り止めることに決定した。私としては民主的に決定したつもりである。

付記

本原稿を作成するに当たり 50 年前の記憶を辿ることになりますので曳光会メンバー林颯一郎^(※8)君、佐藤亘^(※9)君、久米隆時^(※10)君、堀川清昭君、酒井好忠君、榎野賢司^(※11)君等のご協力を得ました。

(※1) 相中相高百年史より。

(※2) 昭和 25 (1950) 年卒。中村出身。 (註) 平成 29 年 2 月の会員名簿には相中第 43 回昭和 20 年 3 月卒業とある。

※3～※11 も全員 昭和 25 (1950) 年卒、

(※3)、(※4)、(※5)、(※11) 中村出身

(※6) 大甕出身

(※8)、(※9) 原町出身

(※10) 佐須出身

(転記文責 村山)